

福井城址活用検討 論点整理

基本的な考え方

「県都デザイン戦略」では、「福井城址を中心とした、歴史を象徴し、人が集まる空間の形成」として城址、中央公園などを一体化した「福井城址公園」を整備することとしており、山里口御門の復元や石垣の遺構を活かした中央公園の再整備など段階的な整備を進めている。

また、長期的には、城址、中央公園およびその周辺エリアに範囲を拡大し、「歴史を偲ぶ空間」「憩いの空間」「活動・文化の空間」の3つの機能を持った、歴史を象徴し、人が集まる中心となる公園とすることを目指している。

以上のような「県都デザイン戦略」における位置付けや、福井城址活用検討懇話会での議論内容、地域住民や若者との意見交換会と各団体の提言を踏まえて論点を整理する。

【県都の特徴および課題】

1. 福井城址（石垣や堀）を中心に、養浩館庭園などの歴史資源が点在

（課題）都市や社会が変容し、歴史資源の結びつきが希薄化し歴史を伝える機能が低下

2. 駅に近接する福井城址が持つ地理的特徴と中央公園を含めた広い公共空間

（課題）人が集まるコンテンツ、緑豊かな憩いの空間の不足

3. 人々が交わり新たな価値を生み出してきた福井城址を基礎とする都市

（課題）都市機能の拡散による人々が交流する場所が不足

上記を踏まえた論点

I. 歴史に触れ、学びを深める空間

- (1) 既存資源の適切な保全、利活用
- (2) 歴史を感じさせる城郭施設の復元
- (3) 福井城址の歴史を知る・学ぶ機会の提供

II. 人が集い、にぎわう、開かれた憩いの空間

- (1) 人が集うにぎわいづくり
- (2) 緑豊かで開かれた憩いの空間づくり

III. 文化の中心地として、新たな価値を生み出す空間

- (1) 文化、芸術活動の促進
- (2) 文化拠点の整備

目標年次

目標年次は、福井県長期ビジョンの目標年次である2040年を長期目標年次とし、北陸新幹線が福井・敦賀まで開業する2024年を短期目標年次、概ね中間年となる2030年を中期目標年次と設定する。

目標年次	2040年	〔 短期目標年次 2024年 北陸新幹線福井・敦賀開業 中期目標年次 2030年 〕
------	-------	---

I. 歴史に触れ、学びを深める空間

(1) 既存資源の適切な保全、利活用

- ・喫煙所などを撤去し、城址北側の石垣を見せるということが大事ではないか。
- ・城址周辺の歩道が狭いと感じるので、さらなる環境整備が必要ではないか。
- ・石垣が孕んでいることを認識し、活用について考えるべきではないか。
- ・石垣やお堀などの既存資源を適切に保全していくことが重要ではないか。
- ・県庁壁面をスクリーンとして活用し城郭の復元映像を映すことにより、多くの人に城址に親しむ空間を提供するとよいのではないか。
- ・県庁壁面や石垣にプロジェクションマッピングを行うとよいのではないか。
- ・福井城址を知るきっかけはたくさんあると思うので、ライトアップを実施するとよいのではないか。
- ・城址内に入りづらい印象があるため、既存資源を活かした集客性のあるイベントを行うとよいのではないか。
- ・福井城址はお堀と石垣が特に評価されていると思われるので、ボート体験や石垣のプロジェクションマッピングなどにより、お堀や石垣を最大限活用してアピールするとよいのではないか。

将来

- ・城という観点では、既存のものを活かすことを大事にしてほしい。石垣だけが残っている城でも十分にその個性を伝えることができる。

(2) 歴史を感じさせる城郭施設の復元

- ・県庁線から見える坤櫓とそれに続く土塀を整備すれば、既に整備された山里口御門、御廊下橋と一体となって城跡公園としての景観が整えられるのでよいのではないか。

将来

- ・福井城址を本当の意味で活用するには、城郭建築の復元が良い。
- ・歴史資源を生かし統一感のある雰囲気は重要。かつ、あらゆる世代が自然に集い、憩い、交流できる場であると良い。

(3) 福井城址の歴史を知る・学ぶ機会の提供

- ・福井城復元VRアプリについてはコンテンツを作って終わりではなくて、それをいかに更新し、拡充していくかということが大事ではないか。
- ・訪れた人に詳細な情報を伝えるものがないため、パンフレットづくりや、遺構に直接影響を与えず城について知ることができるAR、VRの作成などがよいのではないか。
- ・福井城に関する文献を集約できれば、学術的な調査が進むだけでなく多くの人が福井の歴史を理解できてよいのではないか。
- ・福井城址の歴史について学校教育で学ぶ機会を作り、若い世代に知ってもらうことができれば何かを残していこうという考えにつながり、将来的に良いのではないか。
- ・解説付きまち歩きのように、地域の人が福井城址を知る企画があるとよいのではないか。
- ・福井城址に行った事がない人が多くインターネットなどでも情報が不足しているので、改善すると良いのではないか。

Ⅱ. 人が集い、にぎわう、開かれた憩いの空間

(1) 人が集うにぎわいづくり

- ・城址内や中央公園に、カフェなど常に人が集まるようなものを設置するとよいのではないか。
- ・城址内や中央公園に、学生の勉強スペースがあれば、城址の歴史に理解を深めてもらうきっかけになるのではないか。またにぎわいにもつながるのではないか。
- ・フリーマーケットなどを開催することにより、多くの人が城址に親しめるような空間にするとよいのではないか。
- ・中央公園で実施しているワンパークフェスティバルのように、県内外の人が行ってみたいと思うようなものがあるとよいのではないか。
- ・市民や若い世代が集まり様々な取り組みについて実証や検証することができる場所（例：シビック・ラボ等）を設置したらどうか。そのような場所にマネジメントや空間づくりの専門家をアドバイザーとして配置すれば、議論しながらまちの将来像を描いていく開かれた場になるのではないか。

将来

- ・コンベンションホールやカルチャーサロンなど、人が集まる場所となるような施設があるとよいのではないか。
- ・建物を復元しても歴史がないので人は集まらない。福井城址は無理に歴史的なものにする必要はなく、利益を生み出す場所にするとよいのではないか。
- ・あらゆる人の居場所となれるような施設を幅広く考えるべきではないか。
- ・城址内に子どもが楽しめる施設を設置してはどうか。

(2) 緑豊かで開かれた憩いの空間づくり

将来

- ・城址内は、松平試農場の歴史を踏まえ、体験型で農作物などを栽培したり、ガーデニングやワークショップを行う場所にするとよいのではないか。
- ・城址や周辺の緑化などを行い、地域の人たちが歩きたいと思えるような憩いの空間とすることが良いのではないか。

Ⅲ. 文化の中心地として、新たな価値を生み出す空間

(1) 文化、芸術活動の促進

- ・以前、中央公園にあった大きなベンチやブランコのようなアート作品を中央公園等に設置すると良いのではないかな。

将来

- ・中央公園とあわせて城址公園内に、歴史のリサーチを反映し、景観にあった作品（サイトスペシフィック・アート）を設置してはどうか。

(2) 文化拠点の整備

将来

- ・県議会議事堂をリノベーションし、美術館、ミニコンサートホール、劇場などの文化施設として活用するとよいのではないかな。
- ・城址内は、美術館や歴史博物館、図書館、文学館など、今後老朽化していく公共施設を集約し文化施設として活用するとよいのではないかな。